

## 核兵器廃絶を願い、平和集会を開催

KAKKINは8月5日(木)、広島市のホテルセンチュリー21 広島で広島平和集会を、8月8日(日)には長崎市原爆資料館で長崎平和集会をそれぞれ開催した。

例年、原爆の日に合わせて全国から参加者を募る平和全国集会と地方中心の平和地方集会を開催してきたが、新型コロナウイルスの影響により、昨年に引き続き広島・長崎とも大幅に規模を縮小し、地元中心の集会となった。

広島平和集会は8月5日(木)13時より始まり、主催者を代表して永山博之 KAKKIN 広島議長(広島大学大学院教授・KAKKIN 副議長)の挨拶に続き、本部を代表して加藤秀治郎議長が挨拶をした。続いて、立憲民主党の佐藤公治・衆議院議員と公明党の斉藤鉄夫・衆議院議員から来賓のご挨拶をいただき、多数の祝電の中から、代表して二階俊博・自民党幹事長からの激励とお祝いのメッセージが紹介された。

カンパ金(医療器具)贈呈は、広島赤十字・原爆病院、(公財)広島原爆被爆者援護事業団と広島原爆障害対策協議会を管轄する広島市、医療法人財団愛人会、特別養護老人ホーム清鈴園の4団体に目録を贈呈し、代表して広島赤十字・原爆病院の古川善也院長より謝辞を受けた。また、広島市より KAKKIN への感謝状を拝受した。

最後に平和集会アピールを採択して式典を終了した後、永山 KAKKIN 広島議長より「核兵器禁止条約と日本」と題した講演が行われた。



KAKKIN 広島 永山議長

(永山 KAKKIN 広島議長あいさつ)

今年もコロナ禍で規模を縮小しての開催となる。内容を伝えるだけなら、リモートでもできようが、KAKKINのような社会運動はやはり会の前後も含めて、この場所に人がいることが大事である。この労を惜しんでは何事もなしえないと思っている。改めてご足労いただいたことに感謝する。核兵器の廃絶は容易なことではない。しかしその訴えを自分一人で終わらすのではなく、何十年も続けていくことが重要だ。息の長い運動になる。これからもご協力をお願いします。



KAKKIN 本部 加藤議長



広島赤十字・原爆病院へ寄贈

## KAKKIN 広島平和集会



広島市より感謝状拝受



広島赤十字・原爆病院へ寄贈

長崎平和集会は、8月8日(日)12時45分、長崎市立長崎中学校音楽部「爽(そう)」による“千羽鶴”“ふるさと”“長崎の鐘”の3曲のハンドベル演奏でスタートした。

式典は被爆者への黙祷で始まり、KAKKIN 長崎を代表して松尾敬一議長が、続いて、KAKKIN 本部を代表して渡邊啓貴議長代行が挨拶をした。また、来賓挨拶を田上富久・長崎市長、西岡秀子・国民民主党衆議院議員、秋野公造・公明党参議院議員からいただき、中村法道・長崎県知事のメッセージが紹介された。

またカンパ贈呈先は、純心聖母会恵の丘長崎原爆ホーム、長崎純心大学、長崎原子爆弾被爆者対策協議会、長崎原爆資料館、佐世保市総合医療センター、長崎県被爆者手帳友愛会の6団体で、代表して感謝の言葉を長崎県被爆者手帳友愛会の永田直人会長より受けた。最後に平和集会アピールを採択して式典を終了した。



市立長崎中“爽”によるオープニング

(松尾 KAKKIN 長崎議長あいさつ)

昭和 20 年 8 月 9 日午前 11 時 2 分に投下された一発の原子爆弾で、7 万 4 千人が死亡し、7 万 5 千人が負傷した。これは当時の長崎市の人口の 3/4 が被害を受けたことになる。私たちは、このように無抵抗な人を殺傷する核兵器を何としても廃絶に追い込まなければならない。そして KAKKIN は被爆者支援を続けている。今日は被爆者支援活動を行っている 6 団体にカンパを贈呈する。長年やってきた街頭カンパはコロナの影響で断念したが、全国の皆さんがカンパに協力してくれた。感謝申し上げます。



KAKKIN 長崎 松尾議長



KAKKIN 本部 渡邊議長代行



田上長崎市長



長崎県被爆者手帳友愛会へ寄贈